

布の印のつけ方や
接着芯の貼り方は
縫う前の下準備で
詳しく説明しているよ
まだ見たことがない
人は先に見てね!

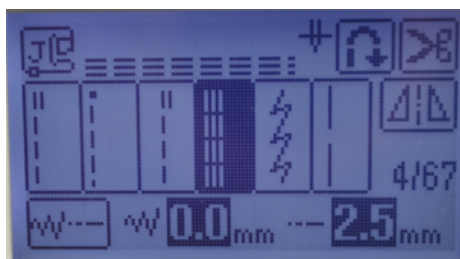
→ 縫う前の下準備

■ 表 ■ 裏

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。

型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。

特別に指示がなければ、洋裁工房で扱っているドールの型紙の縫い代は7mmです。



よく伸びるニットの縫い方

普通の縫い方だと糸が切れるのでニット用のレジロン糸を購入してください

図のような三本線の柄を選択上糸の調子を強めにして縫ってください

これだとかなりの伸縮でも耐えます。

あまり伸びないTシャツ生地だと右隣の雷状の伸縮縫いという機能が使えればこちらを使うといいですよ。

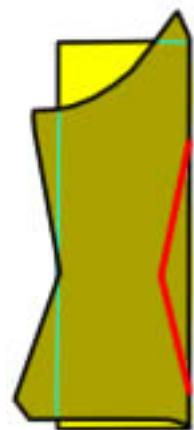
三重縫いがない場合はエッフェルの伸びる糸を使ってください。



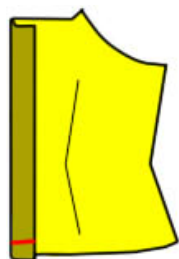
ニットを使う場合は、伸びる生地なので縫っているとどんどん伸びたりずれたりして長さが合わなくなったり、べろべろに伸びたりします。

そこで細かい番手の紙やすりやコピー用紙を帯状に切って、布と押えの間にはさむと、伸びやズレが減ります。


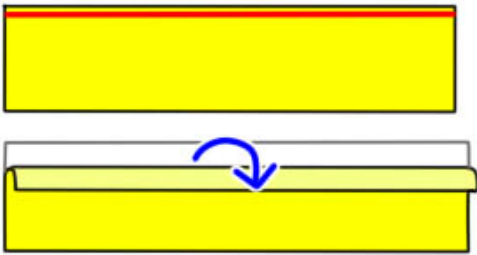
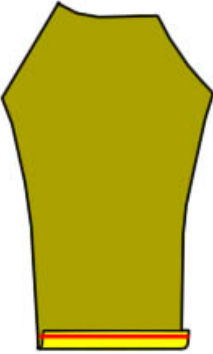
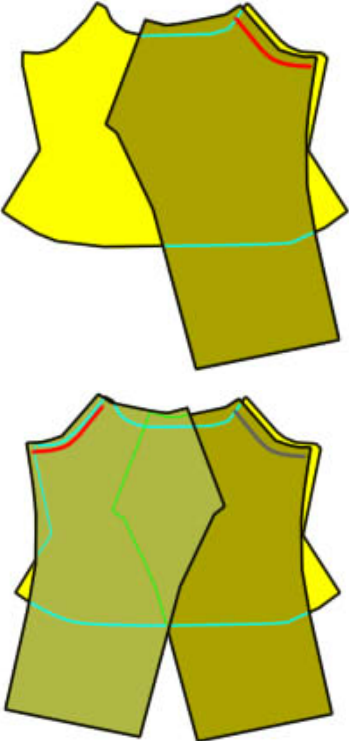
※一緒に縫わないように注意。



後身頃(胴体)のダーツ(立体にするためのつまみ)を縫ってください。(服を立体にするためのつまみ)



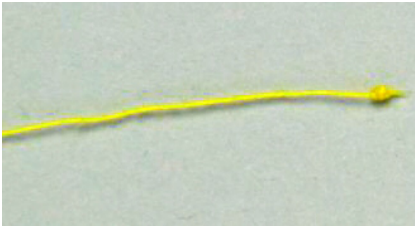
後中心の縫い代を表側へ折って、すその縫い代を縫って下さい。


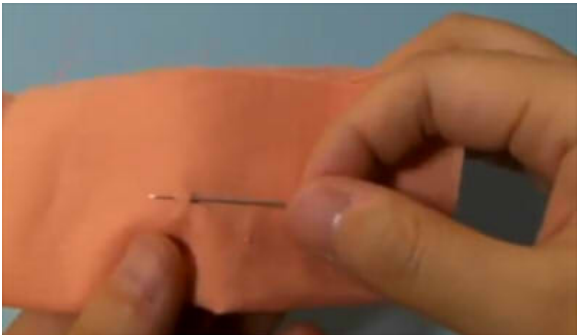
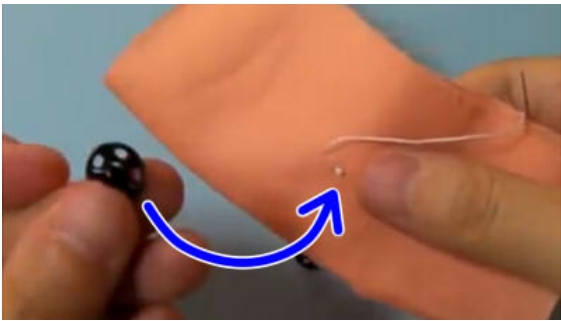

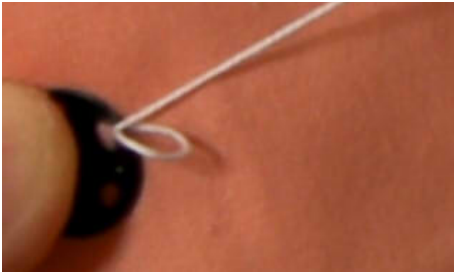
	<p>えりを半分に折って両端を縫ってください。</p>
	<p>えりを表に戻してください。 2～3mmの所を縫って下さい。 アイロンで1.8cmの所を折ってください。</p>
	<p>袖の縫い代を折って縫って下さい。</p>
	<p>前身頃とそでを表同士が内側になるように重ね縫ってください。</p>

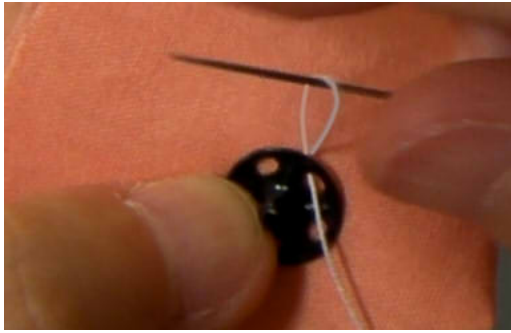
	<p>後身頃とそでを表側同士が内側になるように重ねて、袖を縫ってください。</p>
	<p>そで口から脇を縫ってください。 そでと肩の縫い代は身頃側に折ってください</p>
	<p>えりぐりと、えりのしるしをあわせて縫ってください。</p>

	<p>後の縫い代を表に折って、上の縫い代を縫ってください。 縫ったら縫い代を裏へ折ってください。</p>
	<p>アイロンでつけた折り目でえりを折ってください</p>
	<p>すそを折って縫って下さい。</p>
	<p>スナップボタンをつけてください。</p>

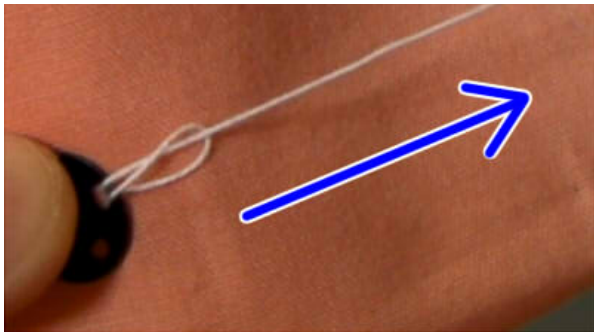
スナップボタンのつけ方

	<p>手縫い糸の端を玉止めします</p>
--	----------------------

	<p>スナップボタンはデコとボコの2つのパーツがあります。</p> <p>体に近いほうに凸、遠いほうに凹をつけます。</p> <p>お手持ちの服を見ると分かりやすいと思います</p>
	<p>スナップボタンをつけたい位置の中心からスナップの半径分外に針を出してください</p>
	<p>最初に針をさした、スナップをつける場所の中心の上にスナップを重ねます</p>
	<p>下から針を穴にくぐらせてください。</p>
	<p>完全に糸を引かず、少し輪を残してください。</p>



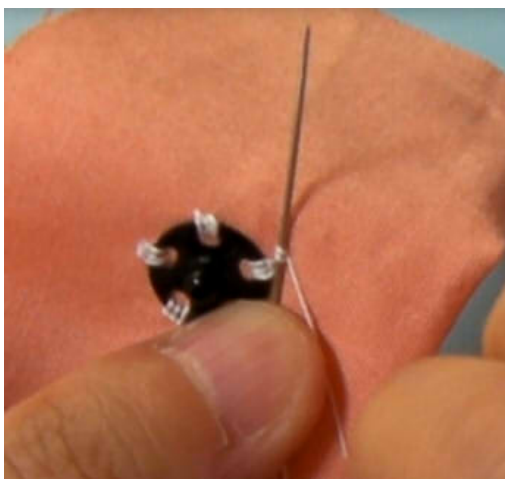
出来た輪に針を通してください。



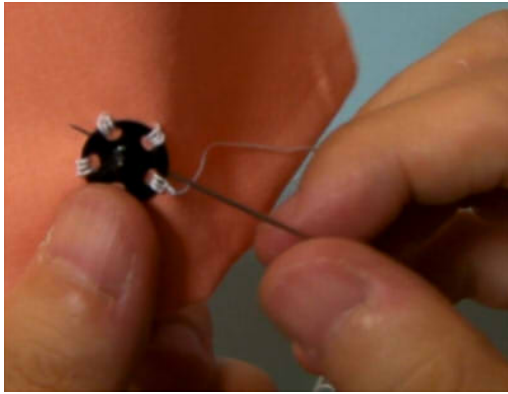
糸を引っ張って輪を締めてください。
こうすると一針一針が強くなりますし、一か所糸が切れてもすべての糸がが抜けたりしなくなりますよ。



縫う数は決まりはありません。
だいたい1つの穴につき4～8針程度で充分です。
太い糸より細い糸の方が強度が弱いので多めに縫ってくださいね。



縫い終わりはほどけないように玉止めをします。



玉止めのすぐそばを切ると、ほどけやすいのでスナップの下をくぐるように生地をすくい、反対側に針を出します。

反対側のホックも同じように生地をすくってから、穴に針を通します。
針に糸を引っかけてから抜くを繰り返して縫いつけます。

いるもの

生地、ニット糸、ニット針、スナップボタン3個 生地にあった色の糸

オススメ生地

スムースニット

出来るだけ厚みの少ないものを使うと野暮ったくなくなりやすいです。

ニットは普通の針で縫うと引っ張ったとき縫い目が大きく広がって目立ちやすくなるので、ニット用の針を使ってください。

普通の糸で縫うと伸縮に耐えられず糸が切れてしまいやすいので、ニット糸を使用してください。